

 コミュニティとの協働

## 服の力でコミュニティを変える

「良い服」が持つ力は、世界のどこでも、  
新しい価値を生み、コミュニティを良い方向に変えていく力を持っている。  
服を通じた支援や社会問題の解決を目指します。



## ソーシャルビジネスの可能性

### バングラデシュで試行錯誤の1年 ソーシャルビジネスの可能性を実感



#### 企業の優位性を活かし、社会的課題を解決

ファーストリテイリング (FR) の企業理念にもあるとおり、私たちは社会にとって良い会社、価値のある会社でなければ、存在する価値がないと考えています。FRは2010年9月、バングラデシュ人民共和国でソーシャルビジネスをスタート。2011年8月にはグラミン銀行グループと共同で、グラミンユニクロを設立しました。

ソーシャルビジネスは、貧困や環境問題など社会のさまざまな課題をビジネスの手法で解決していこうという取り組みです。FRグループの最大の強みは、高品質で低価格の服を、効率的に生産・販売できる点にあります。この優位性を活かし、ビジネスの力で社会をより良い方向に変えていく活動を行うのが、FRのソーシャルビジネスの狙いです。



#### 商品のアイテム数は着実に増加

グラミンユニクロの従業員自らが農村部に入り、販売を担当するグラミンレディたちと行動をともにしながら、市場のリサーチを行う一方、販売方法や金銭管理などのノウハウを丁寧に伝えています。そこからお客様のニーズを汲み取り、市場に合った商品を次々と投入しています。当初からのインナー類や無地のTシャツなどに加え、2011年春からはポロシャツやプリントTシャツ、襟付きシャツなどを追加。お客様の要望に基づき、民族衣装のサリーや衛生改善に役立つ生理用ナプキンの販売も開始しました。売上高は着実に伸びています。グラミンレディもスタート当初の30名から100名以上に増加し、「最初はつらかったけど、代金や商品の管理にも慣れ、収入が増えて楽しい」という声も聞かれるようになってきました。

グラミンユニクロが販売する主な商品



男性に人気の高い襟付きのシャツやポロシャツをはじめ、ウイメンズでは、代表的な民族衣装のサリーやサロアカミュをラインアップ。キッズ商品の売上げも順調なことから、イラストの入ったTシャツなどのキッズ商品も充実させました。売上高の2割をキッズ商品が占めています。また女性の衛生面の改善、社会問題の解決に貢献する観点から、女性向けの下着類やサニタリー商品にも力を入れています。

バングラデシュのソーシャルビジネスに取り組んで1年。  
予想以上の困難に出会いながらも、その可能性も見えています。

#### 販売数量の伸びは目標を下回る

生産面でも成果が出ています。町の小さな縫製工場が従業員が一軒一軒訪ね、事業目的を話して協力を依頼する努力が実を結び、信頼できる生産パートナーが誕生してきました。まだ小規模ですが、心強い味方です。

一方、依然として課題は山積みです。その困難さは予想を超えるものでした。生産量が少ないため価格が下がらず、そのために販売量が伸びにくいというジレンマは、まだ解決できていません。当初より増えたとはいえ、商品のラインアップが少ないことも課題です。魅力ある商品を、競争力のある価格でお客様に提供できておらず、販売数量の伸びは当初の目標には達していません。そうしたことが原因でグラミンレディの販売収入も想定を下回る例が発生し、離職者発生の一因となっています。

#### 「良い商品」を核に、より良い社会をつくる

しかし従業員自らが現地の社会に入り込み、お客様やグラミンレディたちの声を聞き、トライアンドエラーを繰り返すなかで、事業の基礎は固まりつつあります。この1年の取り組みを通じて、ソーシャルビジネスには巨大な可能性がある、私たちは強く感じています。困難な条件は多いものの、この事業は必ず成長する。そう確信しています。その核になるのは、いうまでもなく「良い商品」です。良質な工場で、良い商品をつくり、誠実に売る。それがお客様の支持を得て、さらなる雇用を生み、より良い社会をつくることにつながります。このサイクルを1日も早く確かなものとするために日々、努力を続けています。



グラミンユニクロの理念を表現した商品の発売



ソーシャルビジネスについて、より多くの人に知っていただくことを目的に、グラミンユニクロの理念を表現したTシャツとトートバッグを2011年10月に全世界のユニクロで発売しました。グローバル旗艦店「ニューヨーク5番街店」オープン記念商品の一つ。収益はすべてグラミンユニクロのソーシャルビジネスの活動に充当されます。



#### Grameen UNIQLO

会社名：GRAMEEN UNIQLO Ltd.  
設立：2011年8月  
資本金：10万ドル（約900万円）相当  
役員構成：ファーストリテイリングから役員4名派遣  
Grameen Healthcare Trustから  
1名の役員を選任

[grameenuniqlo.com](http://grameenuniqlo.com)

## 服の価値を最後まで無駄なく活かすために 世界に広がる全商品リサイクル活動

全商品リサイクル活動の回収点数1,000万点突破、  
そして、回収地域は世界に広がり始めました。  
世界中の服を本当に必要としているすべての人に届けることを目指しています。

### UNHCR や NGO とのパートナーシップで グローバルな社会的課題の解決を目指す



#### 英国、米国、フランス、シンガポールでもスタート

ユニクロの全商品リサイクル活動は、2001年のフリースリサイクル活動からスタートしました。その後、リサイクルの対象をユニクロとジーユーで販売するすべての商品に拡大し、現在、日本のユニクロとジーユーすべての店舗で、年間を通じて全商品の回収を行っています。

2011年3月からは韓国でも同様の活動が始まりました。店舗での告知やイベントを通じて、社会課題に対する関心の強いお客様の間で徐々に浸透し、回収点数は着実に増えています。さらに同年9月からは英国、米国、フランス、12月からはシンガポールの4カ国でも回収活動をスタート。すべての販売国で活動を開始することを目指します。

#### UNHCRとグローバルパートナーシップ締結

全商品リサイクル活動の回収枚数は、約1,164万枚。このうち約420万枚をUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)や国際NGOを通じてネパールやザンビア、ボツワナなど22カ国の難民キャンプなどに寄贈しました。しかしUNHCRの調べでは、世界の難民・避難民の総数は約4,300万人。服の数はまだまだ足りない状況です。こうした状況を改善するため、2011年2月、ファーストリテイリング(FR)はUNHCRとの間でより広い領域での難民・避難民問題の解決を目指すグローバルパートナーシップを締結しました。UNHCRとは、全商品リサイクル活動の回収衣料の寄贈先範囲の拡大、FR従業員のUNHCRフィールド事務所でのインターンシップ、日本で難民として受け入れられた方々のユニクロ店舗でのインターンシップの実施 — などの活動を実施しています。



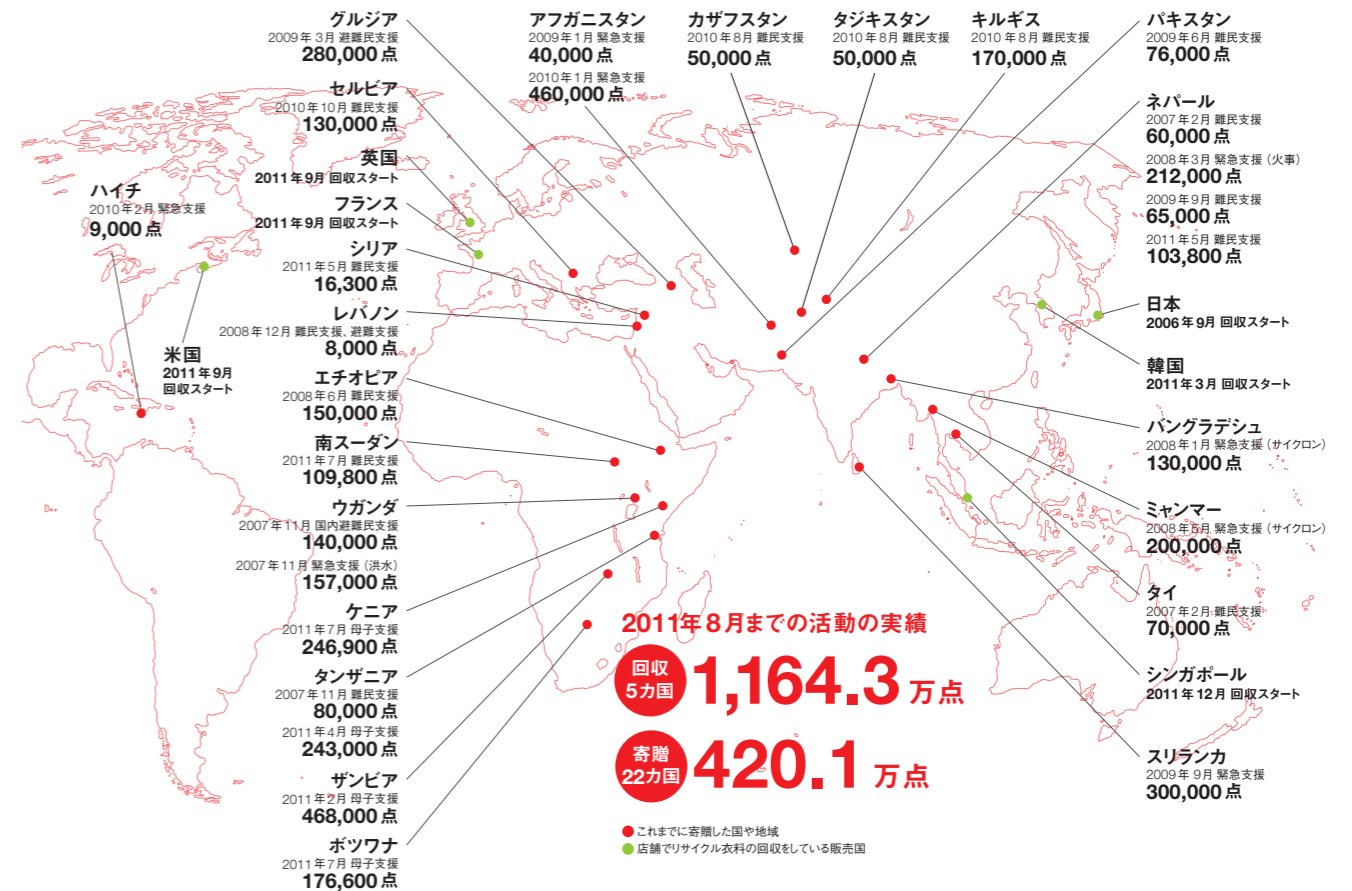
#### ザンビアで妊婦服と乳幼児の服を配布

さらに、たとえばアフリカ南部の国、ザンビアでは、全商品リサイクル活動の公式パートナーである、公益財団法人ジョイセフ<sup>(注)</sup>と協働し、途上国の妊産婦や乳幼児の身体を守るための服を届ける活動を2011年2月に実施しました。発展途上国で乳児の生命を奪う大きな原因の一つが蚊を媒介したマラリアの感染です。服はそのリスクを大きく減らすことができます。このように、世界各地では難民・避難民だけでなく、妊産婦や乳幼児、都市型の生活困窮者など、服を必要としている人たちのニーズは急速に多様化しています。こうした社会的課題を解決するため、FRはさまざまな国際機関やNGOなどとパートナーシップを構築しています。単に服を回収して現地に送るだけでなく、FRの従業員が自ら現地に赴くなど、きめ細かく実情とニーズを把握したうえで、現場に即した、効果的な支援を行うよう努めています。



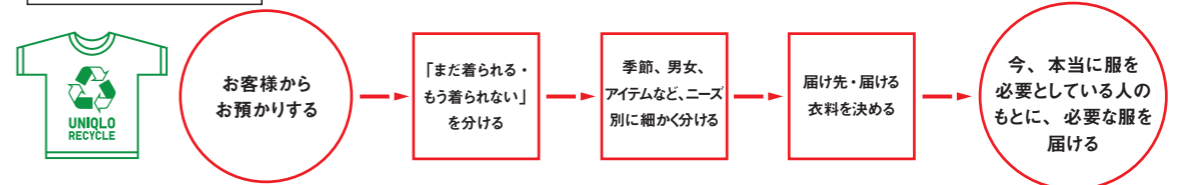
※公益財団法人ジョイセフ・JOICFP = Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning. 1968年設立。アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国において、女性・妊産婦のための母子保健の国際協力を行っている NGO

#### 全世界での寄贈点数 (回収点数の推移は40ページ参照)



2011年8月までの活動の実績  
**回収 5カ国 1,164.3万点**  
**寄贈 22カ国 420.1万点**

#### 全商品リサイクル活動



### 「必要ときに、必要な人に、ふさわしい形で」 東日本大震災被災地、ソマリア飢饉支援に義援金、衣料を寄贈

2011年3月に発生した東日本大震災被災地への支援活動では、FRは、義援金や支援金、支援衣料の寄贈に加え、従業員ボランティアによる衣料の直接配布も行い、合計で約115万点(10.6億円相当)をお届けしました。ただ服を届けるのではなく、本当に必要なときに、本当に必要な服をお届けするため、復興の状況や気候、現地のご要望などを踏まえて、Tシャツや下着などの生活必需品を中心とした継続的な支援を行いました(詳細は39ページ参照)。

一方、過去60年で最悪の干ばつに見舞われているソマリアの飢饉に対し、FRとして100万USD、柳井正代表取締役会長兼社長から個人として100万USDの計200万USDをUNHCRを通じて寄付しました。加えて全商品リサイクル活動の一環として、ケニアに避難しているソマリア難民へ約100万点の衣料支援も行っています。残念ながら日本国内でのソマリアの惨状に対する理解は深くありません。FRによる今回の支援が、この問題に対する社会の関心を少しでも高めるきっかけになればと思っています。

